



長崎県対馬病院実習記 「対馬地区離島実習」

2019. 12. 2~3

長崎大学医学部医学科

5年 中野 友輝

今回、実習の一環として1週間対馬に訪問させていただきました。うち2日間は対馬の中核病院である対馬病院にお世話になりました。対馬空港から対馬病院まではバスで数分の距離でした。病院の外観・内観ともには非常に綺麗で、いわゆる“地域の病院”というイメージとは非常に異なっていました。病院の機器も非常に新しく、長崎本土の病院と引けをとらないほど充実した設備でした。



1日目午前は総合外来の見学をさせていただきました。対馬病院の設備は充実していますが、離島ならではの問題である人手が足りていないという現状があるので、一人の医師が様々な患者さんを診る必要があります。風邪のような患者さんから、転倒した高齢者、こけて手首を受傷した方、様々な患者さんの外来を行いつつ処置もこなしていました。若いうちに様々な患者さんを診て、医師としての基本的な能力をしっかりと身につけたいという方には非常に良い環境だと思いました。午後は単径ヘルニアの手術見学をさせていただきました。先に述べたように、手術室の器材は本土の市中病院と同じレベルのものが備わっていました。技術力も地域だから低いといったことはなく、「本土と同じ質の医療を提供できる」ことがこの対馬病院の強みのようです。

2日目午前は健診の見学をさせていただきました。老人ホームの方や特定健診で検診に来られた方に検査結果の説明をしていました。若い先生もこの業務を行うとのことでした。普段このような業務を本土の若い先生が行っているのを見たことはありませんが、個人的には幅広い業務に携わることができ、説明する練習ができる、正常がどういうものかを知る数をこなせるのは非常に良い経験になると思いました。午後は冠動脈狭窄のある患者さんのPCIの見学をさせていただきました。PCI後には先生と地域医療の現状についてお話しする機会がありました。急患が入ったときドクヘリを飛ばしたくても飛ばせないときがある、自衛隊のヘリに要請を頼むと患者のピックアップまで時間が非常にかかってしまう。地域医療では診察から検査、治療、経過観察、看取りまで自分で行うことができる。離島で働く医師だからこそ抱くジレンマがある。以上のよ

うに、学生では知りえない実際に働いている医師としての視点の考えを聞くことができ非常に勉強になりました。

この2日間を通して感じることはたくさんありました。離島医療にも強いところと弱いところがある。それらが良い悪いというわけではなく、自分がどんな医療をやっていきたいかしっかり考える必要がある。離島で働いているからといって、技術が低いというわけではない。むしろ、離島で何ができて何ができないかをしっかり判別して、しっかり対応できる病院に搬送する能力が重要だということ。先生方の経歴も多種多様で、各先生方は信念をもって地域医療に臨んでいるように思えました。やはりその病院がどういうものか気になったら、実際に来て話してみないとわからないということを改めて実感しました。

以上、私が2日間にわたって対馬病院で実習したこと、感じたことでした。学生指導役で飲み会に気さくに誘ってくださった永安先生、健診説明時にお世話になりました糸瀬先生、P C I 後も忙しいにもかかわらずいろいろお話してくださった山口先生、2日間本当にお世話になりました。